



がんばろう！ 輝く柏崎 ～さらなる未来へ～

テーマ2

「柏崎刈羽の自立支援協議会の
立ち上げ経過と現状」について

協議会の設立経過

平成17年11月 障害者自立支援法成立

平成18年1月 障害者自立支援法施行に伴う連絡会議 設置



以降、18年12月まで月一度のペースで会議実施

平成19年1月

～3月 相談支援事業者、行政で協議会素案の取りまとめ作業

平成19年4月 柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会 設置
(柏崎市と刈羽村で共同設置)

平成19年7月9日 第1回柏崎刈羽地域障害者自立支援協議会 開催

連絡会議について

平成18年1月
スタート

1. 会議設置の目的

- ・ 障害者自立支援法の勉強会（制度の周知、新体系移行...）
- ・ 3 障害の支援関係者間の顔合わせ
- ・ ケアマネジメントの普及（相談支援事業の周知と技術習得）

2. 参加メンバー

- ・ 居宅サービス事業者、知的入所施設、精神生活訓練施設、児童入所施設、福祉ホーム、グループホーム等（7事業所）
- ・ 地域療育等支援事業コーディネーター（1名）
- ・ 授産施設、福祉作業所（2ヶ所）
- ・ 医療機関相談室ワーカー（3ヶ所）
- ・ 行政（県振興局、柏崎市、刈羽村の障害福祉担当課）

新制度施行による不安の吐き出しと顔なじみの関係づくり

連絡会議の検討内容

ー第1回協議会（19年7月）開催までのプロセスー

ステージ	時期	検討内容	ねらいや効果
準備期	18年 1～3月	・ 法律を皆で学びあう ・ <u>各施設の現状報告</u> → 相談支援の必要性明確化	不安の吐き出し <u>顔なじみの関係作り</u>
始動期	4～6月	・ 障害者自立支援体制に向けた「地域課題整理」 ・ 優先課題の抽出 → 支援体制モデル案①提示	グループワークを取り入れ、 <u>仲間意識</u> の基礎作り
活動期	7～9月	・ チーム別ワーキング ・ 協議→活動→まとめ	固定グループで仲間意識の 確立
完成期	10～12月	・ 支援体制モデル案②提示 ・ 案②の精度を高めるためグループ毎に協議 ・ 支援体制モデルの確定	<u>仲間意識</u> の高まりをベース に濃密な議論展開
体制準備期	19年1～3月	・ 組織の役割、目的を明確化 ・ 評価方法について検討	1年間の検討結果を協議会 としてまとめの作業
体制完成期	4～6月	・ 協議会の概要を関係機関等に説明 ・ ワーキング等の活動計画案の説明 ・ 中越圏域との調整について協議	協議会の体制イメージを全 関係者で共有する作業を丁寧 に実施

協議会の目指すところ

(目指す姿、期待するもの)

「この仕組みを使ってドンドン新しい施策をつくり出していきたい」

「もはや行政のみのノウハウやサービス創出だけでは、限界感あり。財政状況等も考慮すると行政依存ではなく、民間も同じ目線で自ら取り組む時期に来ている」という認識あり。

では、そのために

- ①トップの協議会委員を事業所のトップ(理事長等)とし、現場で起こっている事、考えている事、新しい発想をまず理解してもらう
- ②実際に協議会の舵取りは、現場で頑張っている代表からなる「サービス調整連絡会議」で行う
- ③特に①は19、20年度で効果的に行い、21年度移行は実践のため、スピード感を重視した仕組みに転換する
- ④これらを実行するためのパートナーが「相談支援事業者」

パートナーとしての相談支援事業者

(協議会の運営において“パートナー”として期待するもの)

1.多くの経験、体験から蓄積されたノウハウを地域に広める力

- ・個別支援会議への積極的な参加
- ・ケアマネジメント会の運営
- ・ワーキング活動でのリーダー

2.障害者に一番身近な立場として事態を伝える力

- ・サービス調整連絡会議、トップの自立支援協議会でのファシリテーター
- ・相談件数、傾向等の報告と分析

3.全体的な視点の中で、課題の優先順位付けを行える力

- ・サービス調整連絡会議、トップの自立支援協議会のテーマ選定

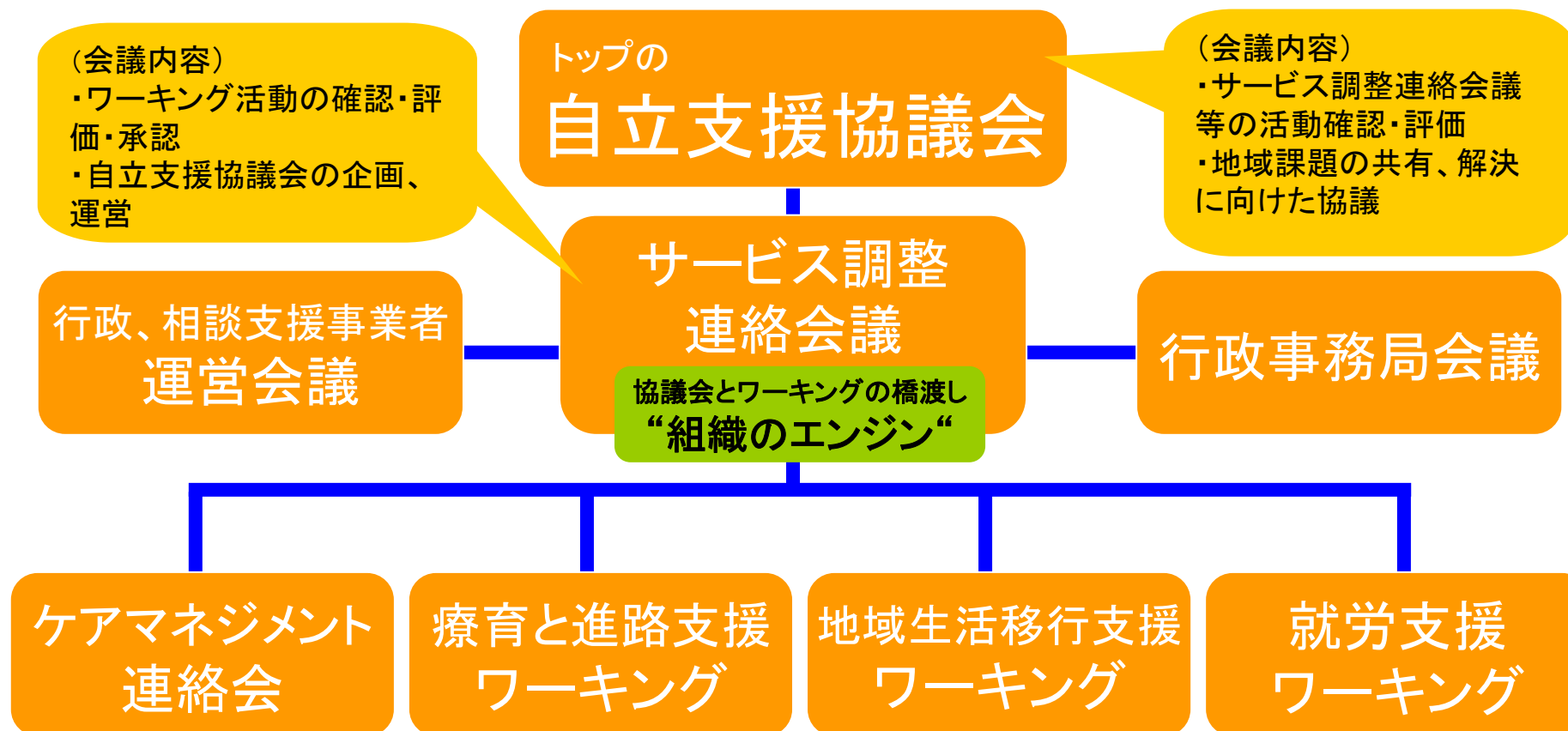
4.課題解決における客観的な視点を持つ力

- ・緊急性、将来への仕組み...どういった視点で課題に取り組むか

協議会の組織体系

※組織体制をまとめるに当たって留意した点

1. 連絡会議で積み上げた現場からの“声”を組織に反映
2. 柏崎刈羽地域内での問題、課題の解決力アップ
3. 平成19、20年度の2年間の活動に特化
4. 既存の活動との協調



トップの

自立支援協議会の歩み

(委員)

学識経験者、医療機関、相談支援事業者、障害福祉サービス事業者代表、
障害当事者、ハローワーク、商工会議所、特支教代表 (12名)

(主な検討内容)

第1回 19年7月9日

- ・協議会の目的、組織の説明

※19.7.16 中越沖地震

第2回 19年11月19日

- ・中越沖地震の振り返り(支援活動報告)

※20.1.8サービス調整会議で激震が走る

第3回 20年3月3日

個別事例を中心とした議論に転換！！

- ・地域課題の共有「在宅生活における24時間介護対応」

第4回 20年7月14日

- ・「在宅生活における24時間介護対応」への具体的対応策の提案
- ・地域課題の共有「障害者の移動の困難」

自立支援協議会の歩み

||

「サービス調整連絡会議」の歩み

(メンバー)

相談支援事業者3、障害福祉サービス事業者代表1、各ワーキング代表4、県振興局3、
柏崎市刈羽村の担当11名 (21名)

(開催ペース、会場)

毎月第二火曜日午後1時30分～、会場も元気館の会議室を通年予約

20.1.8サービス調整連絡会議

「今やってることって、現実と全然関係ないよね...」

「1年前に話し合った課題って話をしたことないね」

「どうやったらサービス改善につながるか分からない」

今後の進め方の大きな転機に

＜これまでの話題は...＞

- ・組織の機能や役割のイメージ化
- ・会議ルール、報告様式の決定
- ・ワーキング活動の計画検討
- ・相談支援の報告等もなし

...会議の在り方論、組織のイメージ化
のやり取りに終始

× 個別事例から離れてしまった

20.1.8サービス調整連絡会議のホワイトボード1

1. 現実論も語る場 にしたい

(先進地を思いやり手回しをどんどんして)

- ・ 現実の認識が大切
- ① サービス改善につながる事例検討
(各町のそれぞれのイメージを出す)
- ② WGやサービス調整会議活動や問題点も知ってもらう
- ③ これまでの活動で出た課題の協議や共有
 - ・ 教育分野が福祉を意識する(かけ必要)
 - ・ 自立支援とは何を語る必要か(次年度)
- ④ 事前協議を深める (協議会をどう扱う場にするか
現実感をもってもらう)

2. 継続構造の生かし方

- ① 個別からの課題抽出 (サービスネット) (GH
・ 地域と考えるサービス改善(如居
・ メンバーと語る楽しさ → 意欲アップ
・ 事例から協議会につなげる仕組みの提案)
- ② サービス調整会議機能も元々にある
WG活動が協議会やサービスにどう
つながるかを明確にし共有する
努力必要 → 参加する意味達成感になる
- ③ 相談支援からの困り事の集積と協議
(相談支援事業者中心に他事業者が参加する)
→ サービス改善と協議会に結びつける

20.1.8サービス調整連絡会議のホワイトボード2

3. 協議会当日の工夫

- ・ 職場スタッフの参加で現実感
を高める
- ・ 利用者の利用の時間帯はさける
- ・ 定例スケジュールあると良い
- ・ 会場を元気館 20. 駐車場利用
の少ない時間帯 (夜間 20.)

今後について 協議会と恋愛関係

- ① サービス連絡会議を生かす(本)
相談支援事業者の報告し協議・共有(日誌・PC)
- ② 教育・医療機関のつながり見直し強化
- ③ WGの負担を軽減する
サービス連絡会議から出た課題も具体的に協議する
現場の声をひきよめてサービス連絡会議・報告
(各WGから出た課題の困りごとをあげるなど)
→ ①で協議に希望人数を把握に法人に依頼
- ④ 今後について サービス連絡会議: WGリーダー
で更に協議する

ここまでを振り返り...協議会運営の工夫

1. 個別事例を中心とした議題、テーマの設定

- ⇒ トップの協議会で定例議題にする
- ⇒ 進行役を相談支援事業者の輪番制へ

2. トップの協議会で法人トップに現実を分かってもらう

- ⇒ 各所属内でのスムーズな話題の広がりを
- ⇒ 仕事に反映させる

3. ワーキング⇔サービス調整会議⇔協議会の関係性を事例により強固にする工夫

- ⇒ 事例が協議会の血液「事例が流れるイメージ」共有

4. 「事例」の意味を整理し、使い分ける

- ⇒ 地域課題としての「事例」と処遇検討を要する困難「事例」

5. 協議のプロセスを可視化し、参加者全員で共有する

- ⇒ トップの協議会は傍聴自由、広い会場で夜間開催に

6. 20年度は具体的な成果にこだわる年に

- ⇒ 具体的な対応策をトップの協議会に提案

7. 障害福祉分野を超えた広がりを意識

- ⇒ 地域資源の捉え方の再認識



第2回協議会の様子
(19.11.19)

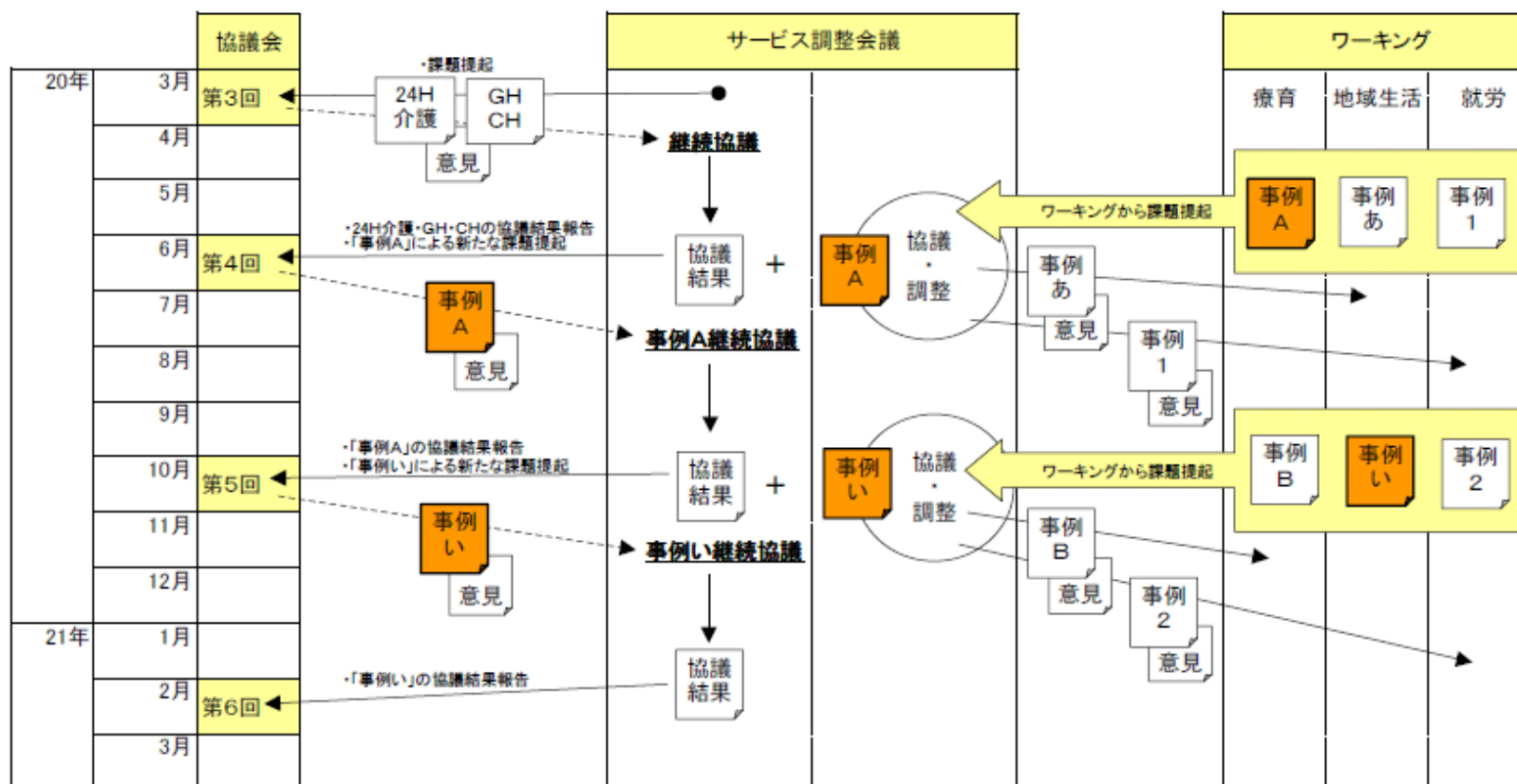


第4回協議会の様子
(20.7.14)

(参考) 事例の流れるイメージ

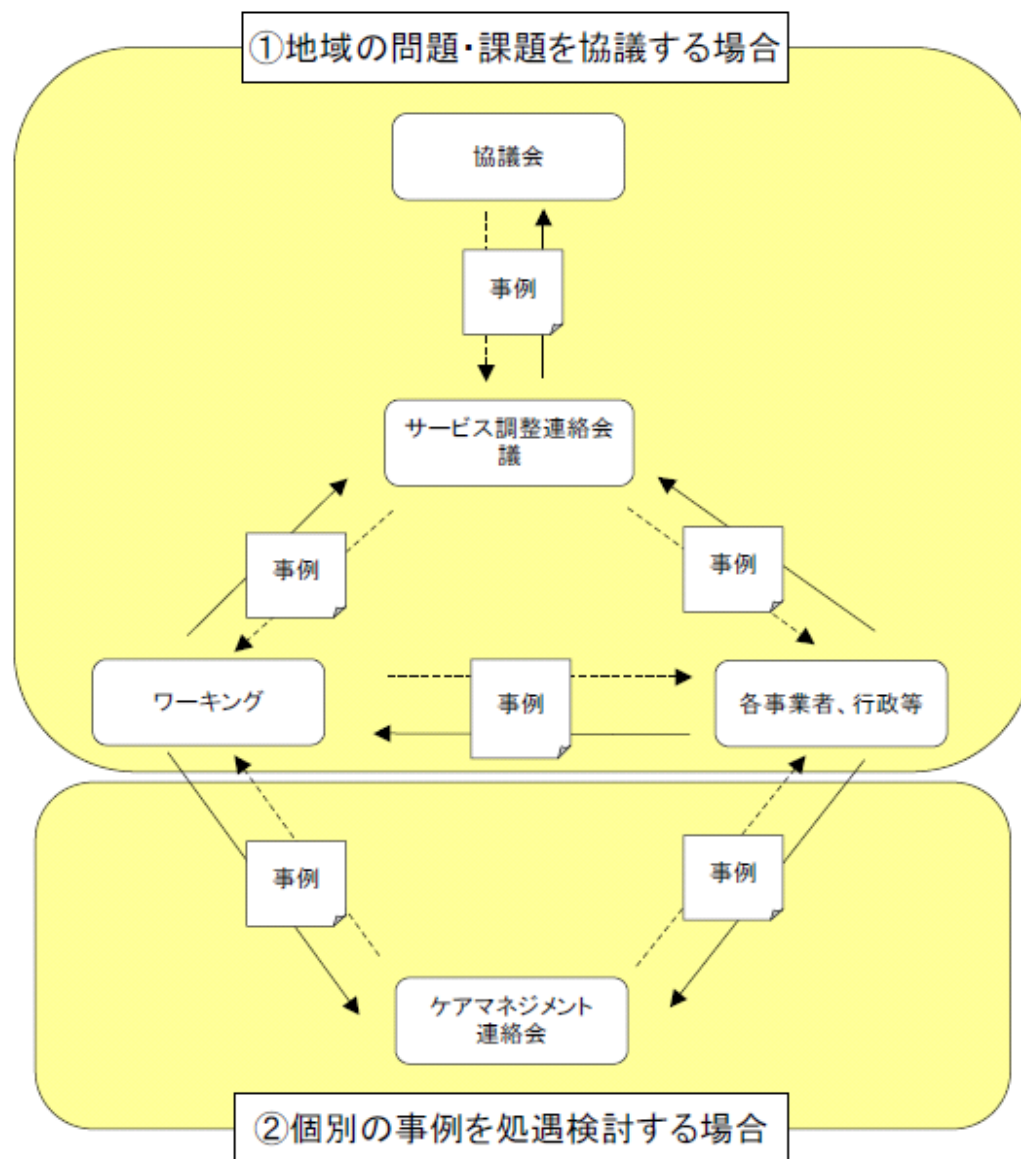
○事例が“流れる”イメージ2

①地域の問題・課題を協議する場合



参加者、ワーキングの発言がきちんと取り上げられる仕組み

(参考) 事例の意味合いの整理と使い分け



会議で論点が
ぶれないために

困難事例も相談支援
事業者からなる
ケアマネジメント連絡会
で寄り添う